

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503445		
法人名	株式会社グローバルケアマネジメント		
事業所名	ポテトタウン北の沢		
所在地	札幌市南区川沿1条3丁目5-23 (電話) 011-572-6655		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成21年3月23日	評価確定日	平成21年3月30日

【情報提供票より】 (21年3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	17年	8月	25日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8	人			
職員数	8 人	常勤	8人,	非常勤	人,	常勤換算	7.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000~30,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 15,000円	
敷金	(有) (29,000~30,000円)	無	暖房費(11-3月) 8,000円	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900	円

(4) 利用者の概要 (3月 10日現在)

利用者人数	8名	男性	名	女性	8名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3		要介護4	3名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 83.3歳	最低 79歳	最高 92歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 五輪橋内科病院、川沿中央病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ポテトタウン北の沢は札幌市郊外、藻岩山の南向き斜面に面した、見晴らしの良い住宅地に位置する。知的障害者施設を運営する運営者が、老後にも関心を広げて開設した2つのグループホームの一つである。木造の大きな民家を改築したもので、ごく普通に見かける民家のたたずまいがそのまま活かされていて、明るく落ち着いた居住環境である。管理者は、家族のような膝をつき合わせた生活の中で、親以上の愛情を持ってお世話をするという信念で職員の指導に当たり、認知症のお年寄りの心情を深く理解した運営が行われている。開設以来比較的日子が浅い中で、多くの改善課題に意欲的に取り組みながら向上を目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回は12項目の改善課題を掲げたが、評価を運営推進会議で取り上げること、利用者の思いや意向の把握などで改善が見られ、そのほかの項目についても取り組みが進んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全従業員に回覧し、10日余りをかけて記入を求め、管理者および計画作成担当者でまとめた。評価作成の過程でグループホームのあり方を改めて認識し、適切な運営が行われていることを確認する上で有効に活用されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3ヶ月ごとに開催され、ホームの運営状況、利用者の生活ぶり、行事、災害対策、自己・外部評価について報告して討議にかけ、その中で、徘徊する利用者の保護支援体制、ボランティアの活用、などについて助言、提案を受け、さらに地域住民を対象にした認知症学習会が実現している。その他、各種の相談、情報交換の場として活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族と面会の際には何でも言っても貰えるような信頼関係作り、積極的な声かけによって意見や希望をくみ上げる努力をしている。出された希望や意見は日誌に書き留め、職員全員で話し合いながら対応し、改善につなげている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会に加盟して日常的な付き合いの足がかりにはしているが、会の活動は、周辺に坂が多い、盆踊りは夜の時間帯、運動会は身体機能が無理、などの事情で、利用者には困難が多く、参加するには至っていない。会からは長寿の祝い金を届けて貰っている。地域の業者が飲食物の販売に来訪して馴染みの関係になっている。こども110番の家を受託している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	穏やかで人間らしい暮らし、自分らしさや誇りのもてる暮らし、という開設時以来の理念に、後に、住み慣れた地域での安心した暮らし、という理念を追加して実践に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新規採用の職員研修には理念の学習を盛り込んでいる。毎月の例会や事例の検討では必要に応じて理念が参照される。理念は玄関、廊下、リビングなど要所に掲げられている他、職員の名札の裏に印刷され、いつでもどこからでも見られるようになっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加盟して日常的な付き合いの足がかりにはしているが、会の活動は利用者には困難が多く、参加するには至っていない。会からは長寿の祝い金を届けて貰っている。地域の業者が飲食物の販売に来訪して馴染みの関係になっている。こども110番の家を受託している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全従業員に回覧し、10日余りをかけて記入を求め、管理者および計画作成担当者でまとめた。評価作成の過程でグループホームとしてのあり方を再認識し、適切な運営が行われていることを確認する上で有効に活用されている。外部評価で提起された課題は職員と共に話し合っており取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月ごとに開催され、ホームの運営状況、利用者の生活ぶり、行事、災害対策、自己・外部評価を報告して討議にかけ、その中から助言、提案を受け、運営に活かされている。その他、各種の相談、情報交換の場として活かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	札幌市および南区のグループホーム管理者会議に参加して、市および区の職員と交流し、連携を図っているが、個別に行き来する機会は、業務上の用件を除いてあまりない。	○	人員増により管理者の時間的余裕ができる見込みなので、市や区にも足を運ぶ機会を増やしたいとの意向なので、その実現に期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会の時にホームでの生活状況、ケアプランの確認、受診内容、金銭出入りなどを報告している他、個人ごとに手書きの手紙を、写真入の「ポテト新聞」とともに随時送付している。職員の異動も文書で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と面会の際には何でも言って貰えるような信頼関係作り、積極的な声かけによって意見や希望をくみ上げる努力をしている。出された希望や意見は日誌に書き留め、職員全員で話し合いながら対応し、改善につなげている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の意向も尊重し、働きやすい環境づくりで定着に努めている。職員が離職しても利用者にダメージはないと考えているが、各人の理解度に応じて個別に事情を説明し、不安の解消に配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で毎月の例会の折に随時、テーマを選んで研修を行っている。日常業務の中では具体的事例を取り上げて休憩時間などを利用して指導している。年に数回、職員が法人他事業所を訪問して現場実習を行っている。外部研修の機会は少ない。	○	外部研修に出す機会を増やす計画とのことなので、その実現に期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、札幌市や南区の管理者会議に参加して交流しており、区のグループホーム協議会の交流会には職員も参加しているがそれ以外の職員の交流の機会はない。	○	区内のグループホームと職員の相互訪問研修の話が進行中とのことなので、その実現に期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に家族は何回か、本人も最低1回は事前訪問して職員や他の利用者と懇談して馴染むように進めている。入居の当初は職員が1対1で付き添い、話を聞き出し、他の利用者引き合わせ、溶け込めるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族団らんのような雰囲気の中で、生活歴を考慮しながら得意な分野で力を発揮して貰っている。食事関連やその他の家事にも可能な限り参加して貰っている。利用者の人生経験に教えられ、疲れているときにはねぎらわれ、励まされて感激することもある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向は、職員同士情報交換し合う中で、あるいはテレビやチラシなど関心を向けているものから推し測って、理解をしている。居室に雑記帳を備え、思うままに綴ってもらうことによって、口では語られない、多くの思いを見出すことができている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、医療関係からの情報や職員が見た毎日の生活情報を基にして作成している。利用者や家族に意向や思いを聞くが、なかなか出されない状況である。計画作成担当者が作成した介護計画は、全職員で確認し、家族に郵送している。利用者には、具体的な介護計画の説明はしていない。	○	利用者の状態に応じて、介護計画を説明するとともに、家族の方にも郵送するだけでなく、積極的に意見を聞いて取り入れていくよう期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月毎に見直しを行っている。退院後や足腰の変化、転倒や骨折などの身体変化が生じた時は、本人、家族と話し合っ随時介護計画の見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて、医療機関への通院の送迎を行っている。下着や日常の生活用品の買い物など、利用者の要望に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、連絡ノートを利用して伝えたい事や質問などを記入して、医師から答えて貰うようにしている。薬の副作用について電話で尋ねたり、定期的に病院を訪問するなど、かかりつけ医との関係を築き、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、自立している利用者の家族には重度化や終末期のあり方について話していないが、通院が多くなったり、身体レベルの低下している利用者の家族には、事業所の対応を口頭で伝え、今後の対応について相談している。	○	事業所として、重度化や終末期に対しての方針を文書化して確認していく予定なので、その取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	命令形の言葉や幼児言葉は使わないようにし、職員同士でも気づいた時はお互いに注意し合うようにしている。トイレ誘導も、手を引いてさり気なく介助するように配慮している。来訪者は、職員が日誌に記録している。個人記録の書類は事務所で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶の時間、ラジオ体操など、ある程度決まった流れはあるが、一人ひとりのペースを大切にしている。風船ゲームや輪投げなどを楽しんだり、居室で手芸を楽しむなど自由に過ごせるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事前に献立は作成しないで、職員が利用者の体調に合わせて、希望を聞きながら調理している。もやしのひげ根取りや米研ぎ、ごますりなどの下ごしらえや食後の食器洗いなどを手伝って貰っている。利用者と職員は、会話をしながら一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、月、火、金、土の4回を入浴日として1人週2回以上は入浴出来るように支援している。家族が温泉に連れて行く事もある。入浴拒否者には、家族に協力して貰い声かけして貰ったり、病院に行く事を話してスムーズに入浴出来た例もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	座っている人に新聞やチラシを持って行ってくれたり、声をかけてゲームに誘うなどの世話役をする利用者もいる。読書や手芸、あみものなどを自主的に楽しんだり、将棋崩し、輪投げなどのゲームも利用者同士で声かけ合って楽しむ事も多い。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季は、天気が良ければ毎日全員公園に散歩に出かけたり、ショッピングセンターに、おやつを食べに出かけたりしている。4月からは、管理者が週2回、2人ぐらいつつ一緒に買い物に出かける予定である。冬季は、家族と出かけて貰うようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にチャイムを付けて出入りを把握して、安全面に配慮している。外出しようとした時は、職員同士で目配せなどで連携して、さり気なく声をかけて一緒に外出するようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日勤帯、夜勤帯の非常事態避難マニュアルを作成している、年2回、消防署の協力のもと通報訓練、初期消火などの避難訓練を夜間も想定して行っている。地震を想定して、家具も固定している。救急救命の講習も別途、行っている。	○	地域や近隣に災害時の協力を呼びかけ、一緒に避難訓練を行う予定なので、その取り組みを期待したい。
28	77	○栄養水分量や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量や水分摂取量は、個別に記録して利用者の健康状態を把握している。栄養バランスは、本を参考にしてバランスを考えている。利用者の状態に合わせて、お粥や刻み食などの対応をしている。	○	今後は、管理栄養士に定期的に献立を見て貰う予定なので、その取り組みを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の大きな窓からは、明るい光が入り季節感が感じられるようになっている。トイレには、個別の洗面台が付いていて、使いやすい作りになっている。玄関には椅子が置かれていて、利用者が、ゆっくりくつろぐ事ができるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇や箆笥、椅子、人形など馴染みの物を持ってきて貰う事で、利用者が居心地良く過ごせるような工夫をしている。居室には、職員の顔写真を貼ってある。入口ドアの取っ手も、握りやすいように取り付けるなどの配慮がされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。